令和５年度シラバス（　農業　）　学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

教科(科目)	農業（農業と環境）	単位数	２単位	年次(コース)	２年次(アグリ・フード系列)
使用教科書	実教出版『農業と環境　新訂版』				
副教材等	なし				

1　学習目標

農業と環境に必要な基礎的知識と技術を習得し、農業の各分野で活用する能力と態度を習得する。

2　指導の重点

（1）栽培植物ついて、体験的・継続的に学習し、成長や収穫の喜びを経験させる。
（2）農業及び環境に関する基礎的知識と技術を習得させる。
（3）観察、記録・調査などを通して、農業生物の生育や地域環境を科学的に捉える力をつけさせる。

3　評価の観点の趣旨

知識・技能	思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度
･農業と環境について体系的･系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようとしている。	・農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養おうとしている。	・農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養おうとしている。

4　評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能　a	思考･判断･表現　b	主体的に学習に取り組む態度　c
評価の観点	･農業と環境について体系的･系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようとしている。	・農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養おうとしている。	・農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養おうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・中間・期末考査 レポート提出 提出課題 資格取得 などから､評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・中間・期末考査 レポート提出 提出課題 資格取得 などから､評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・中間・期末考査 レポート提出 提出課題 資格取得 などから､評価します。

5　学習計画

月	単元名	授業時数と領域	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4・5	・私たちの暮らしと農業 ・学校農業クラブとは ・農業に関する基本的用語	１２	・社会生活の中の農業の意味や役割 ・農業学習における学校農業クラブ活動の意義 ・農業学習に必要な基礎知識の習得	ab ab abc	定期考査 レポート 実習状況

6 ・ 7	・栽培の基礎学習と環境（1） ・露地野菜の栽培学習(春～夏の野菜)	２０	・植物の生育と環境との関わり ・肥料や農薬の使い方 ・野菜の植え付けから収穫までの基礎的な知識と技術	abc abc abc	定期考査 レポート 実習状況
8 ・ 9	・栽培の基礎学習と環境（2） ・学校農業クラブとプロジェクト学習	8	・人為的な環境操作と植物の生育 ・草花を使ったプロジェクト学習	abc abc	定期考査 レポート 実習状況
１０ ・ １１	・露地野菜の栽培学習(秋～冬の野菜) ・日本農業技術検定に向けた取り組み	１６	・植え付けから収穫までの基礎的な知識と技術の習得 ・日本農業技術検定の過去問を使った栽培学習	abc abc	定期考査 レポート 実習状況
１２ ・ 1 ・ 2 ・ 3	・農業・農村の役割 ・日本の農業と世界の農業	１８	・農業や農村が持つ機能 ・日本と世界の農業について（食料自給率、農産物輸入の現状、日本の農業の現状と課題)	ab ab	定期考査 レポート 実習状況

計７０時間（50 分授業)

※　領域ごとの授業時数合計

領域ごとの授業時数合計	A 「話すこと・聞くこと」時間	B「書くこと」時間	C「読むこと」時間

※　増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

6　課題･提出物等

・実習レポート等
・ノート
・学習の記録

7　担当者からの一言

農業と環境の学習は知識を覚えることだけではなく、圃場での実習を通して「体験から学ぶ」姿勢が最も大切です。
実習服 10,000 円程度が必要です。　　(担当：　長　)

学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

令和５年度シラバス　（農業）

教科(科目)	農業（課題研究）	単位数	４単位	
学科(コース)	３年次（アグリ・フード系列）			
使用教科書	農業および食品に係わる教科書			
副教材等	なし			

１　学習目標

農業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

２　指導の重点

農業の各科目で学習した個々の専門的な知識と技術を関連付け、その深化、総合化を図るとともに、今後の社会生活で必要な問題解決の能力、自発的、創造的な態度及び自己教育力を育成する。

興味・関心、進路希望等に応じて個人、あるいはグループによる課題を設定して調査研究・実験・作品制作、職業資格の取得、学校農業クラブ関連活動等を行い、自主的行動力、自己解決能力を身につけさせる。

３　学習計画

学期	区	単元(主要学習領域)	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
前期	中間Ⅰ	課題研究のガイダンス 課題の設定 活動計画の作成 課題研究活動	課題研究の目的と進め方 課題の設定 課題活動計画書の作成 課題を進める環境整備	２２	活動計画書 活動日誌 レポート 自己評価
	中間Ⅱ	課題研究活動	課題実践 課題実践の記録 記録の集約・集計	２４	活動日誌 レポート 自己評価
	期末	課題研究活動 課題研究中間発表	課題実践 課題実践の記録 記録の集約・集計 中間発表資料の作成	２４	活動日誌 レポート 自己評価
後期	中間	課題研究活動	課題実践 課題実践の記録 記録の集約・集計	３５	活動日誌 レポート 自己評価
	期末	課題研究活動の集約・集計 課題研究活動報告書作成 課題研究発表	課題研究活動の集約・集計 課題研究活動報告書作成 課題研究発表資料の作成	３５	活動日誌 レポート 自己評価

計１40時間（５０分授業）

４　課題・提出物等

活動日誌・レポート・自己評価書

５　評価規準と評価方法（評価は次の観点から行います。）

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
課題を見つけ、積極的にその解決を探ろうとしている。また、自ら行動を起こしている。	課題に対する考え方や、その解決方法を判断し適切に表現している。	問題解決をするための技能・技術を身につけている。	問題解決のための知識を身につけている。また、科目「課題研究」の意義や役割を理解している。

以上の観点をふまえ、授業への取り組み・レポート提出・出席を総合的に評価します。

６　担当者からの一言

自ら課題を見つけ、結果にとらわれることなく、様々な角度から課題に取り組んでください。
2年次に購入した実習服を使用します。課題の内容によって、費用がかかる場合もあります。
（担当：本間）

令和５年度シラバス（ 農業 ）　学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

教科(科目)	農業（総合実習Ⅰ（アグリ））	単位数	４単位	年次(コース)	２年次(アグリ・フード系列)
使用教科書	なし				
副教材等	なし				

1　学習目標

農業の各分野に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得させ、経営と管理についての理解を深めさせるとともに、企画力や管理能力などを身に付け、農業の各分野の改善を図る実践的な能力と態度を身に付けることを目標とする。

2　指導の重点

農業の各分野に関する体験的な学習を通して、農業生産に係わる基礎的な知識と技術を習得し、自然・生命に対する豊かな感性を養い食の重要性を理解し、農業の各分野の経営と管理についての理解を深めさせるとともに、自己解決能力、自主的な行動力など産業人としての心構えを身に付けさせる。また、農業を学ぶ目的や、学び方、生産活動を通して、専門教科を学習する実践的な能力と態度を身に付けさせる。

3　評価の観点の趣旨

知識・技能	思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度
・農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとしている。	・農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養おうとしている。	・農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養おうとしている。

4　評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能　a	思考･判断･表現　b	主体的に学習に取り組む態度　c
評価の観点	・農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとしている。	・農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養おうとしている。	・農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養おうとしている
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・実習の取り組み ・課題、レポートの提出 などから､評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・実習の取り組み ・課題、レポートの提出 などから､評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・実習の取り組み ・課題、レポートの提出 などから､評価します。

5　学習計画

月	単元名	授業時数と領域	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
４ ５	農業の産業としての目的と総合実習のガイダンス	２２	農業生産に必要な基礎的な知識、技術の習得 農業機械、器具の安全な使い方	a a、b	実習への取組 レポートの提出
６ ７	作物、野菜、草花の栽培（その１） 生育調査	２４	農業の各分野の総合的体験実習 生育調査 各分野の専門性を深める	a、c b、c a、b、c	実習への取組 レポートの提出

8 9	作物、野菜、草花の栽培（その2）、生育調査 農業の各分野の生産物の収穫・調整	２４	農業の各分野の総合的体験実習 生育調査 各分野の専門性を深め、応用力を高める。 実習レポートのまとめ	a、c b、c a、b、c a、b、c	実習への取組 レポートの提出
１０ １１	作物、野菜、草花の栽培（その3）、農業の各分野の生産物の収穫・調整	３５	農業の各分野の総合的体験実習 各分野の専門性を深め、応用力を高める。 収量調査・収穫物の利用 作業の計画の企画力・生産管理能力をつける。	a、c a、b、c b、c a、b、c	実習への取組 レポートの提出
１２ １ ２	作物、野菜、草花の栽培（その4） 農業経営	３５	農業の各分野の総合的体験学習 農業経営の演習 学習内容のまとめ	a、c b、c a、b、c	実習への取組 レポートの提出 報告書

計　１４０　時間（50分授業）

※　領域ごとの授業時数合計

領域ごとの授業時数合計	A 「話すこと・聞くこと」 時間	B「書くこと」 時間	C「読むこと」 時間

※　増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

6　課題･提出物等

・授業に使用するプリント
・課題プリント
・毎日の実習レポートや作業ノート等

7　担当者からの一言

実習の目的を理解し、指示や決められた管理や実習をしっかりとやり遂げることが大切になります。屋外での実習を伴いますので、実習服10,000円程度が必要です。　（担当：青木）

学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

令和５年度シラバス　（農業）

教科(科目)	農業（総合実習Ⅱ）	単位数	２単位	学科(コース)	３年次（アグリ・フード系列）
使用教科書	なし				
副教材等	なし				

１　学習目標

農業の各分野に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得させ、経営と管理についての理解を深めさせるとともに、企画力や管理能力などを身に付け、農業の各分野の改善を図る実践的な能力と態度を身に付けることを目標とする。

２　指導の重点

農業の各分野に関する体験的な学習を通して、農業生産に係わる基礎的な知識と技術を習得し、自然・生命に対する豊かな感性を養い食の重要性を理解し、農業の各分野の経営と管理についての理解を深めさせるとともに、自己解決能力、自主的な行動力など産業人としての心構えを身に付けさせる。また、農業を学ぶ目的や、学び方、生産活動を通して、専門教科を学習する実践的な能力と態度を身に付けさせる。

３　学習計画

学期	区	単元(主要学習領域)	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
前期	中間Ⅰ	農業の産業としての目的と 総合実習のガイダンス 農業生産と農業経営	農業生産に必要な基礎的な知識、技術の習得 農業機械、器具の安全な使い方 農業生産における農業経営の役割を理解する	１１	実習への レポートの提出
	中間Ⅱ	作物、野菜、草花の栽培（その１） 生育調査 農業経営の演習	農業の各分野の総合的体験実習 農業作物の生育調査 各分野の専門性を深める 各分野における農業経営の役割を理解する	１２	実習への取組 レポートの提出
	期末	作物、野菜、草花の栽培（その２） 生育調査・農業の各分野の生産物の収穫・調整 農業クラブ活動	農業の各分野の総合的体験実習 生育調査 各分野の専門性を深め、応用力を高める 農業鑑定	１２	実習への取組 レポートの提出
後期	中間	作物、野菜、草花の栽培（その３） 農業の各分野の生産物の 収穫・調整	農業の各分野の総合的体験実習 各分野の専門性を深め、応用力を高める。 収量調査・収穫物の利用 作業の計画の企画力・生産管理能力をつける。	１７	実習への取組 レポートの提出
	期末	作物、野菜、草花の栽培（その４） 農業経営	農業の各分野の総合的体験学習 農業経営の演習 学習内容のまとめ	１８	実習への取組 レポートの提出 報告書

計７０時間（５０分授業）

４　課題・提出物等

授業に使用するプリント・課題プリント・実習レポート・ノート

５　評価規準と評価方法（評価は次の観点から行います。）

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
毎時の内容や題材を理解し、実習に意欲的に取り組むことができる。また、実習記録をしっかりと取っている。	実習の目的を理解したうえで、自ら課題を見つけ把握し、自分なりの工夫の中で解決している。	応用的な栽培･製造などの技術が身についている。作物等に合った適切な管理、実習ができる。	実習で学習した知識を身につけている。応用的な栽培、生産方法を理解している。
以上の観点をふまえ、授業への取り組み・課題・レポート提出・出席などから総合的に判断します。			

６　担当者からの一言

実習の目的を理解し、指示や決められた管理や実習をしっかりとやり遂げることが大切になります。
実習中心の科目になるので、実習服の準備が必要です。2年次に購入した実習服を使用します。（担当：本間）

学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

令和５年度シラバス（農業）

教科(科目)	農業（野菜）	単位数	４単位	学科(コース)	３年次（アグリ・フード系列）
使用教科書	実教出版　『野 菜』				
副教材等	なし				

１　学習目標

野菜栽培に必要な基礎的知識を理解させ、栽培･販売実習を行い知識･技術の習得を深める。

２　指導の重点

（1）特に実習での整列、服装、準備、使用器具の正しい使い方、整理整頓、片付け等を徹底させる。
（2）事故や怪我を防ぐため、指示に対する正確な理解と判断、正しく機敏な行動を徹底させる。
（3）はじめて農業科目を選択する生徒も、早期から専門的な知識・技術に取り組ませる。
（4）栽培環境の管理実習、収穫、販売実習をとおし、野菜の特性や生育状況を理解させる。
（5）実習内容、考察を確認させる。

３　学習計画

学期	区	単元(主要学習領域)	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
前期	中間Ⅰ	野菜生産の役割と動向	野菜の種類、特徴、利用 野菜の生産と供給 育苗技術実習	２２	定期考査 レポート 実習状況
	中間Ⅱ	野菜の育苗 果実を利用する野菜の栽培	育苗の目的と方法 野菜苗の育苗方法及び栽培管理実習 露地野菜や施設野菜	２４	定期考査 レポート 実習状況
	期末	野菜の生育特性と栽培環境 葉や花茎を利用する野菜の栽培	野菜の生育と生理 播種実習および収穫･調整･販売実習 野菜栽培に必要な知識と技術を習得	２４	定期考査 レポート 実習状況
後期	中間	根を利用する野菜の栽培	野菜の生育と生理 栽培管理および収穫･調整･実習 野菜の流通と鮮度保持	３５	定期考査 レポート 実習状況
	期末	野菜の生育特性と環境調節	野菜の栽培環境と生育調節 野菜の安全性	３５	定期考査 レポート 実習状況

計 140 時間（50 分授業）

４　課題・提出物等

・単元ごとにノートを提出していきます。
・実習ごとにレポート作成し、提出していきます。
・春季、秋季には販売実習を設定しています。

５　評価規準と評価方法（評価は次の観点から行います。）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
野菜栽培や野菜の社会的役割などに興味・関心を高めている。	生育調査を分析し、記録をすることで、科学的にとらえる判断能力を身につける。また観察や考察などを正確に表現する。	野菜栽培に関する技術や農機具の正しい使い方を身につけている。	野菜栽培や生産物利用、食料問題について知識を身につけ、農業の社会的意義や役割について理解している。

以上の観点をふまえ、定期考査の学習成績・授業に取り組む姿勢、実習での技術、正確性・レポート提出状況・出席の状況を総合的に評価します。

６　担当者からの一言

農業学習は知識を覚えることだけではなく、「説明をしっかり理解し考え、正しい判断で正しい行動をとる」ことが最も大切です。植物は常に生長を続け変化していきます。自分勝手な行動が生長を妨げることのないように知識・技術を高めていきましょう。なお、実習服の購入には 10,000 円程度が必要です。　（担当：青木）

学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

令和５年度シラバス　（農業）

教科(科目)	農業（草花）	単位数	２単位	学科(コース)	３年次（アグリ・環境系列）
使用教科書	草花（実教出版）				
副教材等	なし				

１　学習目標

草花栽培に必要な基礎的知識と技術を習得し、草花の特性や栽培に適した環境を理解する。

２　指導の重点

（１）草花の社会的役割を考え、草花の生産から消費までの仕組みを理解させる。
（２）草花栽培に必要な基礎的知識と技術を習得させる。
（３）観察、調査・記録などを通して、草花の特性や生育環境を理解させる。

３　学習計画

学期	月	単元(主要学習領域)	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
前期	中間Ⅰ	草花生産 草花園芸の特徴	草花の種類　生産形態 実習を通しての草花生産の実際 販売実習	１１	定期考査 レポート 実習態度
	中間Ⅱ	生活と草花の利用 草花の多面的利用 園芸デザイン	草花の多面的利用 園芸デザイン 販売実習	１２	定期考査 レポート 実習態度
	期末	草花の特性と栽培技術 草花の生育と環境要因 品種改良と繁殖	草花の一生 草花の品種と品種改良 草花の品種改良 学校花壇の整備	１２	定期考査 レポート 実習態度
後期	中間	草花の特性と栽培技術 草花の生育と栽培技術 生産施設と栽培環境の調節	草花の生育と土・水・肥料 草花の栽培管理 施設の機能・構造とその利用 販売実習	１７	定期考査 レポート 実習態度
	期末	切り花生産と鉢物生産 切り花生産の特色 鉢花生産の特色	切り花の種類と特性 切り花の種類と特性 鉢花の用途と栽培上の特性 観葉植物の種類と特性	１８	定期考査 レポート 実習態度

計 70 時間（50 分授業）

４　課題・提出物等

実習や実験では生育調査、スケッチなどのレポートを提出します。

５　評価規準と評価方法（評価は次の観点から行います。）

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
草花栽培や草花の社会的役割などに興味・関心をもち、意欲的な態度で取り組もうとしている。	生育調査、記録などについて分析し、科学的にとらえ判断する能力を身につけ、観察や考察などについて正確に表現できる。	草花栽培に関する基礎的な技術を身につけ、その技術を適切に活用している。	草花栽培や開花調節などの知識を身につけ、草花の社会的意義や役割について理解している。

以上の観点をふまえ、定期考査の学習成績・授業への取り組み状況・レポート提出状況・出席の状況を総合的に評価します。

６　担当者からの一言

農業学習は知識を覚えるだけではなく、ほ場に出て「自ら学ぶ」姿勢が大切です。温室での作業も多く、夏は暑く冬は寒いときがあります。実習服 10,000 円程度が必要です。　（担当：本間）

学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

令和５年度シラバス　（農業）

教科(科目)	農業（食品化学Ⅰ）	単位数	２単位	学科(コース)	２年次（アグリ・フード系列）
使用教科書	食品化学（実教出版）				
副教材等	なし				

１　学習目標

食品の成分と栄養を理解するとともに，食品の分析と検査に必要な知識を習得し，食品製造及び農業の各分野で応用する能力と態度を育てる。

２　指導の重点

主な食品の成分，栄養，性質に関する基本的な知識を習得させるとともに，加工や貯蔵の過程における成分変化と栄養素の代謝について理解させる。

３　学習計画

学期	区	単元(主要学習領域)	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
前期	中間Ⅰ	食品化学と食品製造	食品化学、食品製造の領域ならびに役割	１１	定期考査 レポート 履修態度
	中間Ⅱ	食品の成分と栄養 水分 炭水化物	食品の成分 水分 炭水化物	１２	定期考査 レポート 履修態度
	期末	食品の成分分析 食品の分析とは 必要性とその概要 基礎的な実験器具	食品分析の目的、必要性及びその方法 化学実験の基礎	１２	定期考査 レポート 履修態度
後期	中間	食品の成分と栄養 脂質 タンパク質	食品の成分 脂質 タンパク質	１７	定期考査 レポート 履修態度
	期末	食品の成分と栄養 食品群別の成分と栄養	食品群別の成分と栄養	１８	定期考査 レポート 履修態度

計７０時間（５０分授業）

４　課題・提出物等

課　題：作文、課題レポート、実習報告書　　提出物：ノートまたは学習の記録等

５　評価規準と評価方法（評価は次の観点から行います。）

評価は次の観点から行います。

知識・技能　a	思考･判断･表現　b	主体的に学習に取り組む態度　c
・食品に必要な知識を身につけ、食品産業、農業の意義や役割を身に付け、食品産業、農業の意義や役割を理解している。 ・食品化学実験に関する基礎的・基本的な技術を身につけている。	・食品化学に関する思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断する能力を身につけている。	・食品を構成する物質や成分の変化に関心を持ち、意欲的に理解するとともに、創造的、実践的な態度を身につけている。

６　担当者からの一言

化学基礎や生物基礎などの教科と関わりが深く、これらの教科書は使用しないが参考になります。
実験時には体調を整えて臨んでください。　　（担当：長）

定期考査、提出物（実験・実習カード・課題レポート・ノート等）、履修態度などから総合的に判断して評価を行います。

学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

令和５年度シラバス　（農業）

教科(科目)	農業（食品化学Ⅱ）	単位数	２単位	学科(コース)	３年次（アグリ・フード系列）
使用教科書	食品化学（実教出版）				
副教材等	なし				

１　学習目標

食品の分析と検査に必要な知識と技術を習得し，食品の成分と栄養を理解するとともに，食品製造及び農業の各分野で応用する能力と態度を身につける。

２　指導の重点

主な食品の成分，栄養，性質に関する基本的な知識を習得させ，加工や貯蔵の過程における成分変化と栄養素の代謝について理解させる。

３　学習計画

学期	区	単元(主要学習領域)	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
前期	中間Ⅰ	食品成分の代謝と栄養 食品群別の成分と栄養	食品成分の代謝と栄養	１１	定期考査 レポート 履修態度
	中間Ⅱ	主な栄養素の代謝	炭水化物・タンパク質・脂質の代謝	１２	定期考査 レポート 履修態度
	期末	食品化学実験の基礎	食品化学実験の心がまえ 基本操作、基本的な分析方法	１２	定期考査 レポート 履修態度
後期	中間	食品の成分分析 食品添加物	食品成分分析の意義 食品分析の実践 食品添加物 食品添加物の検査方法	１７	定期考査 レポート 履修態度
	期末	食品衛生検査	食品衛生検査 食品衛生検査法	１８	定期考査 レポート 履修態度

計７０時間（５０分授業）

４　課題・提出物等

課　題：作文、課題レポート、実習報告書　　提出物：ノートまたは学習の記録等

５　評価規準と評価方法（評価は次の観点から行います。）

①　関心・意欲・態度	②　思考・判断・表現	③　技能	④　知識・理解
食品化学について関心を持ち、意欲的に取り組むとともに、創造的、実践的な態度を身につけている。	食品化学に関する思考を深めている。実践的な知識と技術を活用して適切に判断する能力を身につけている。	食品化学の実験に関する実践的な技術や技能を身につけている。	実践的な知識を身につけ、食品産業や農業の意義や役割を理解している。

(1)定期考査　(2)提出物（実験・実習カード・課題レポート・ノート等）　(3)自己評価　などから総合的に判断して評価を行います。

６　担当者からの一言

実験時は、体調を整え、説明をよく聞いて、実験器具、機器、試薬等の取り扱いには注意が必要です。

（担当：長）

学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

令和５年度シラバス　（農業）

教科(科目)	農業（生物活用）	単位数	２単位	学科(コース)	３年次（アグリ・フード系列）
使用教科書	生物活用（実教出版）				
副教材等	なし				

１　学習目標

園芸作物や社会動物の活用に必要な知識と技術を習得するとともに、それらの生物を活用し、生活の質の向上を図る能力と態度を身につける。

２　指導の重点

園芸作物や社会動物の役割や活用方法など、生物を活用する活動について興味関心を持たせ、実際に生物を活用した活動を体験することで生物活用に対する意欲を持たせる。

３　学習計画

学期	区	単元(主要学習領域)	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
前期	中間Ⅰ	科目のガイダンス 生物活用の意義と役割	園芸作物、社会動物と人間生活 色彩について 人間の脳のしくみと感覚	１１	定期考査 実習　作品 課題・レポート提出
	中間Ⅱ	園芸作物の栽培（その１） 園芸デザインの活用	草花・野菜・ハーブの栽培と活用 フラワーアレンジの作品制作	１２	定期考査 実習　作品 課題・レポート提出
	期末	園芸作物の栽培（その２） 園芸療法とその特徴	草花・野菜・ハーブの栽培と活用 生育調査・収穫・活用 園芸療法の特徴 園芸療法の歴史と現状	１２	定期考査 実習　作品 課題・レポート提出
後期	中間	園芸作物の栽培（その３） 社会動物の活用 イヌの活用と効果	草花・野菜・ハーブの栽培と活用 収穫・活用 動物療法の特徴 （動物は飼育しません。）	１７	定期考査 課題・レポート提出
	期末	生物活用の実際 対象者の理解と交流の技法	園芸セラピーの活用 園芸療法に関する基礎知識と技術	１８	定期考査 課題・レポート提出

計７０時間（５０分授業）

４　課題・提出物等

授業に使用するプリント・課題プリント・実習レポート・ノート

５　評価規準と評価方法（評価は次の観点から行います。）

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
生物活用の諸活動に関心をもちその意義や役割の理解及び諸問題の探求に意欲的に取り組むとともに、園芸作物の栽培と活用技術を応用しようという意欲・態度を身に付けている。	生物活用に関する諸問題の解決を目指し、生物活用の知識と技術を身に付け、生物を活用した療法への適切な応用と判断する能力を身に付けている。	生物を活用するための基礎的・基本的な栽培・利用技術を身に付け、その技術で生物を活用した療法の諸課題を解決するために活用している。	生物の活用と人間との関係を理解し、活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、その意義と役割を理解している。

定期考査・授業態度・レポート、課題提出・出席などにより各観点から総合的に評価します。

６　担当者からの一言

植物や動物の持つ役割を理解するだけでなく、自ら育て、活用することが大切です。作業の際、実習服が必要となります。実習服代 10,000 円程度必要です。また作品を制作するため教材費を 4,000 程度収集します。（担当：長　）

学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

令和５年度シラバス　（農業）

教科(科目)	農業（環境保全）	単位数	２単位	学科(コース)	３年次（アグリ・フード系列）
準教科書	新版　地域からつくるあしたの地球環境（実教出版）				
副教材等	なし				

１　学習目標

環境保全に関する知識と技術を取得し、実際に活用する能力と態度を身につけることを目標とする。

２　指導の重点

環境保全に関する知識と技術を習得させ、環境保全技術に活用する化学的技術の習得と、環境保全に取り組む能力と態度を育てる。

３　学習計画

学期	区	単元(主要学習領域)	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
前期	中間Ⅰ	地球環境と人間 環境調査の意義	異常気象と気候変動 地球温暖化・オゾン層の破壊 酸性雨と森林破壊、砂漠化 環境調査の意義と目的	１１	定期考査 授業への取り組み レポート
	中間Ⅱ	資源とエネルギー	地球資源とエネルギー資源 資源の利用と地球環境 資源の有効利用 植生調査と水質調査、雨水の調査	１２	定期考査 授業への取り組み レポート
	期末	環境の保全と化学技術	廃棄物の化学的処理 資源のﾘﾕｰｽ、ﾘﾃﾞｭｰｽ、ﾘｻｲｸﾙ 食品と水の安全性の確保 化学物質と健康被害 植生調査と水質調査、雨水の調査	１２	定期考査 授業への取り組み レポート
後期	中間	環境の保全と技術 環境保全と農林業その１	大気汚染対策 水質改善対策 土壌汚染対策 環境保全と農業の多面的機能	１７	定期考査 授業への取り組み レポート
	期末	環境保全と農林業その２ 生物の多様性と保護 環境保全に関する法規	環境保全と林業の国土保全機能 生物多様性の重要性と保護 国際的な取り組みと保全に関する法規	１８	定期考査 授業への取り組み

計７０時間（５０分授業）

４　課題・提出物等

授業中に使用するプリント・調査・観察レポート

５　評価規準と評価方法（評価は次の観点から行います。）

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
環境の調査・保全・創造について興味・関心をもち、環境保全・創造の重要性などについて探求している。	環境問題について調査・保全・創造に基づいて思考を深め、基礎的知識と技術をもとに合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現することができる。	環境の調査・保全・創造に関する基礎的な技術を身につけ、その技術を適切に活用している。	環境の調査・保全・創造に関する基礎的な知識を身につけ、環境保全・創造の重要性を理解している。
以上の観点をふまえ、定期考査・授業、調査への取り組み・レポート提出・出席を総合的に評価します。			

６　担当者からの一言

環境学習は知識を得ることだけでなく、現場での調査・観察も重要です。身近な環境に接することで環境保全に関する問題意識と、基礎的な知識・技術を学びます。　（担当：青木）